

第 8-2 号

耕 人

『耕人塾』

塾長 木村 民男

令和元年 6 月 15 日 (土)

「人間力」について

『耕人塾』の趣旨は、「石巻地域の中・高校生の『人間力』を磨き、地域や社会に貢献する人材を育成し、併せて大学生や市民を巻き込んだ学びの場とする」です。今回は「人間力」について、『耕人塾』でどうとらえ、塾生の皆さんに何を期待しているのかを述べたいと思います。

『耕人塾』では、「人間力」の要素を「知・徳・体」の総合的な力と捉え、「徳を養い・心体を鍛え・知を高める」としています。「徳を養う」とは、自主・自律の精神や他の人と協調しながら目的を達成しようとする力、思いやりや優しさ、奉仕の心や実践力を養うことです。「心体を鍛える」とは、心と体は一体であり、生きていく上でどちらも大切です。「心」の面では明るさや素直さ、物事に取り組む意欲や忍耐力、「体」の面では健康や体力、柔軟性や運動能力が含まれます。心も体も鍛えることが大切です。「知を高める」とは、知識・理解はもとより、課題発見力や問題解決力、論理的思考力や想像力を高めることです。

この「徳・体・知」の三つの要素をバランスよく向上させることが「人間力」を磨くことにつながります。これらのことを踏まえて、『耕人塾』の塾生として 1 年間どのような気持ちで参加してほしいかを 3 点述べます。

① 塾生の皆さんは多くの選択肢の中から『耕人塾』での学びを選んだ訳ですが、この出会いを大切にしてほしいということです。相田みつをさんの詩に「その時の出逢いが 人生を根底から変えることがある 良き出逢いを」があります。『耕人塾』での出会いを素晴らしいものにするために多くの方からたくさんのごことを学び、自分という人間を深く耕してほしいと思います。

② 自分の「人間力」を磨くために新たなものに挑戦してほしいということです。挑戦するためには自分がどんな人間になりたいのかという志を立て、強い決意と勇気を持って実践してほしいのです。時には失敗することもあるかもしれませんが、それはすべて新たな自分になるための学びです。声優の南條愛乃(よし)さんは「つらいことや悲しいことがあっても、苦悶や悲痛の演技をするときには生かせる。だから、人生に無駄はなくなった」と言っています。

③ どんなに良いことでも与えられたことを仕方なくやっているのでは長続きしません。せっかく『耕人塾』に参加するのですから楽しんで活動することが大切です。楽しさとは与えられるものではなく、自らつくりだすものです。自分が楽しいだけでなく、回りをも楽しくさせたら素晴らしいですね。ワクワクドキドキした活動になるよう工夫してみてください。

『耕人塾』での出会いがかけがえのないものになり、「人間力」を磨くことを通じて新たな自分をつくるきっかけになったら素晴らしいですね。この 1 年間楽しんで活動していきましょう。

「チカラの言葉」(住吉中 2 年小松光成君 H31. 2. 28 石巻日日新聞から)

小松君は昨年度の『耕人塾』塾生です。第 68 回社会を明るくする運動作文コンテストで県推進委員会委員長賞を受賞した作文の一部を紹介します。

「いってらっしゃい」「おかえりなさい」「おはよう」「気を付けて」。学校までの通学路、野球に行く時間、ゴミ置き場で。僕はたくさんあいさつをする。そして、たくさんの人に声をかけてもらう。その瞬間、その度に「野球がんばるぞ」「今日も元気に過ごそう」といったパワーが湧いてくる。僕は、この言葉やあいさつは、力の言葉であると思う。(略)僕はこれからもたくさんの人に元気にあいさつをしていこうと思う。そして、たくさんの人に力をもらおうと思う。それが誰もが安心して、自分らしく暮らせる社会につながることを信じて。

小松君は『耕人塾』でも自分から進んで元気で爽やかなあいさつをしていました。「あいさつ」は、『耕人塾』実践事項の一つです。小松君のようなあいさつをみんなで広めたいですね。